

令和7年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第1回全体会議 記録

日時：令和7年5月28日（水）

午後3時00分～4時30分

場所：刈谷市役所 7階 701会議室

出席者

団体名・役職等	氏 名
愛知大学 教授	鈴木 誠
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市小中学校長会	佐野 恵子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕章
刈谷市自治連合会	大野 裕史
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
NPO 法人子育て・子育てNPO スコップ 理事	米山 裕美
一般公募	石田 彰宏
一般公募	戸田 広二
一般公募	吉川 真由美
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
市民活動部長	伊藤 雅人

欠席者

文化工房かりや 代表	久保田富士子
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	市民協働課長	神谷 友理
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	協働推進係長	遠藤 麻衣香
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランティアネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランティアネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ・自己紹介

・定刻になり、市民協働課課長が開会を宣した後、資料確認と委員による自己紹介を行った。（略）

2 議題

(1) 委員長の選任

委員長に鈴木誠氏が推薦され、全会一致で承認された。鈴木氏より就任の挨拶が行われた。

(2) 職務代理者の指名

委員長より、米田正寛氏が指名された。米田氏はその場で承諾し、職務代理者に就任した。

(3) 刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会について

ア 基本方針

■【資料1】を提示し、共存・協働のまちづくり基本方針について事務局が説明

(共存・協働のまちづくり推進基本方針)

- ・共存・協働のまちづくりは、平成21年2月に策定された基本方針に基づいて推進する。
- ・共存・協働のまちづくりとは、市民、地域団体、市民活動団体、事業者、教育機関等、行政など様々な主体が、暮らしやすく心の通ったまちを目指し、課題を「自分ごと」として、お互いを尊重したうえで、目標を共に、知恵や力を活かしあい、対話、理解、共感を大切にしながら、社会的課題に取り組むこと。
- ・子育てや介護などにおいて家族や隣近所の結びつきが弱まり、行政サービスだけでは複雑化・個別化する市民ニーズに対応が困難となり、市民一人ひとりがまちの課題を自分ごととして取り組む必要性が高まっている。市民が主体的に生きることができ、さまざまな人や組織がつながりあうことで、市民の力が地域にいきるまちの実現を目指す。
- ・多様な主体が持つ経験や資源を相互活用できる情報共有などの環境の構築や、効果的なつながりを促進するコーディネーターの育成が必要。
- ・「ひと」「想い」「対話」「つながり」「場」の5つのキーワードを重視し、共存・協働のココロをもって対話を始めることで新たな仲間が集まり、協力関係が熟成し、まちづくりの力となる。
- ・共存・協働のまちづくりを推進するうえでの6つの重点課題である人材育成、情報、場所、財政支援、行政サービスへの市民参画、団体同士・異なる主体との交流・協力について、様々な取り組みを実施する。
- ・推進委員会では、各主体の関係者から、お互いの力を活かしあい、基本方針に掲げる取組や新たなまちづくりの課題について、改善や方策を進める。

■質問・意見交換

委員長：【資料1】3頁(1)～(3)でこれまでとこれから、将来的な目標が掲げられている。4頁以降に記載の刈谷市の共存・協働の考え方が大事で特徴的であり、優しさや温かみのある内容である。適宜、委員の皆さんから説明や助言をいただくと、3頁(1)～(3)の真意が良く理解できる。

イ 運営体制

■【資料2-1、2-2、2-3】を提示し、共存・協働のまちづくり推進委員会の運営体制、各部会で協議する内容について事務局が説明

(資料2-1/共存・協働のまちづくり推進委員会の運営体制および委員名簿裏面)

- ・共存・協働のまちづくりを進める各主体の関係者を委員として設置。16名で組織し、任期は2年。
- ・全体会と、その下に個別の施策に重点的に取り組む2つの専門部会を設ける。委員は全体会のほか、いずれかの部会に属する(委員名簿裏面ご参照)。
- ・夢ファンド部会では、かりや夢ファンド補助金の活用の拡大について検討するほか、審査員として、書類審査、公開審査会でのプレゼンテーションをもとに、採否を決定する。
- ・まちづくり部会では、地域活動の現場で、共存・協働のまちづくりを進めるための方策を検討する。担い手不足やコロナ禍の地域イベント中止など、従来の手法のみで地域活動の展開が難しい状況を踏まえ、まちづくりコーディネーター(以下、まちコ)や市民活動団体と連携して、地域の課題解決に役立てる方策を検討する。部会の名称は2年前の委員会で委員の提案によって決定した。

(資料名2-2、2-3/かりや夢ファンド補助金紹介資料)

- ・市民主体で自主的に行う活動を応援する補助金制度。まちづくり活動支援、NPO 法人設立支援、まちづくりびと支援の3つのメニューがある。

- ・市民や企業からの寄付金と同額を市が積み立てる「マッチングギフト方式」による市民活動支援基金を財源とする。
- ・まちづくりびと支援は、活動スキルを高めるための研修への参加費や交通費などを補助。通年で募集する。
- ・まちづくり活動支援は、2つの枠組みを設けており、5万円以下の申請は書類審査のみ、20万円以下の申請は、書類審査に加えて公開審査会でのプレゼンテーションを経て採否を決定する。5万円以下枠は5月14日に募集を締め切り、5件の申請があった。
- ・まちづくり活動支援20万円以下枠及びNPO法人設立支援は、7月中旬から募集開始予定。夢ファンド部会での審査を経て、交付を決定し、活動対象期間は来年度1年間。

（資料名2-4/まちコ派遣紹介資料）

- ・各主体同士の効果的なつながりを促す目的でまちづくりコーディネーター（以下、まちコ）の登録制度を設置。地域活動・市民活動に2年以上携わる方、仕事としてコーディネート業務を行う方、つなぎの学び舎の修了者が登録する。
- ・まちづくりを自分ごとと捉えて活動する人が増えるよう、まちのお世話役として、地域や市民団体から依頼を受け、会議の進行のお手伝いや団体同士のつなぎ役、地域の課題解決にむけた伴走支援といった取り組みを通じて、解決のために取り組んでいきたい人や団体と一緒に考え、応援する役割を担う。
- ・原則2人1組の活動としており、派遣にかかる必要経費は依頼者負担とする。

（資料名2-5、2-6/つなぎの学び舎紹介資料）

- ・まちコの養成講座「つなぎの学び舎」は、2年に1回開講し、今年は開講年度。7月から翌年2月まで全7回開催。6月16日（月）申込締切。
- ・「つなぎの学び舎・リカレント まちづくりステップアップ講座」は、まちづくり活動の実践力の向上を目的とし、6月8日（日）開催。

■意見交換

委員長：新規委員の方もいらっしゃるので、昨年度の議論の紹介や感想を述べてもらいながら、意見交換したい。

【夢ファンド部会について】

（これまでの成果と課題）

- 委員：申請された提案を自分たちの企画として、よりよくするために部会で自分ごととして検討してきた。企画内容も面白く、まちづくりの活動はバラエティに富み、それによる難しさもあったが、成功させるためにどうするとよいか、部会メンバーと一緒に考えることができ、やりがいのある内容だった。課題として応募数が少ないことがある。審査して選ぶというより企画の内容を盛り上げる議論が中心であった。広報に力を入れることが大切である。金額的に大々的な広報よりも、口コミで、採択され活動した人から次の人へ伝えるやり方が、ちょうどよいのではないか。
- 委員：部会に参加するまで補助金制度を知らなかったが、団体の活動を知るきっかけになった。面白い活動が多くあることを知ったものの、どれだけの人に知られているだろうか。活動の際にのほりをたてて知ってもらうきっかけをつくるなど改善した点もあった。市民が使いやすいよう、活動のスタートに活用していただけるとよい。
- 委員：市内に多くの団体があることを知って感動した。一般の方も含めて、活動を知る機会が少なく残念である。「KATCH」の放送で活動を知ることもあったので、マスコミなど情報発信ツールをさらに活用されるとよい。のほりもいろいろなところで活用されるとよい。
- 委員：いろいろな団体から活動の提案があり、知ることができた点がよかった。その活動が市民に知られていない点は課題である。団体側として、継続して活動する上で課題はある。資金面は苦しく、継続するための資金はゼロに近い。補助がなくなったら活動がなくなる課題は共通する。
- 委員：自身が夢ファンドの活用経験がある。5万円以下の枠ができたり、自分の頃よりも、申請書が簡素化され使いやすくなって、今の形なら苦労しなかっただろうな、と思う。入口は簡単になったので、そ

ここに至るまでの広報の工夫や、活動を続けていくためのしかけができるとよい。

委員：5万円以下の申請は書類審査となったり、補助回数上限3回の検討が行われるなど、申請のハードルは下がってきた。さらに進化していったほしい。他方、周年記念補助でイベントを打ち上げ花火のようにやるだけでなく、団体が力をつけていくために継続的に応援していく必要がある。

同時に、認知度を上げていくことも大切である。先日、子どもたちに風船をプレゼントする寄付イベントを行い、多くの寄付をいただいた。こうしたPRの機会も設けても市民の認知を広げることは難しいが、自治会を活用するなどしくみとしてPRできるとよい。市民の認知度を高めて夢ファンドへの寄附に力をいれることで、利用する団体も増えるのではないか。啓発活動に力をいれて、審査の数が多くて困るくらいになるとよい。

委員：まちづくりびとを活用して、東京で研修に参加したことがある。領収書の提出等手続きは簡単であった。活用が広がるとよい。市内にも支援制度が多くあり、ありがたい。自治会への補助金を活用して子どもたちとの活動に役立てている。

事務局：まちづくりびとの申請対象は、同一人物は3年に1回という規定がある。

委員長：60歳以上は2年に1回とするなど、活用の頻度を高めることも検討いただけるとよい。

委員：マッチングギフトの一環で、割り勘の余りを寄付してもらった提案があったが、実施には至らなかった。

委員：センターで夢ファンド補助金の申請のお手伝いをする中で、申請の手続きが難しい、どうやったらいいか、という方々の声に触れてきた。やりたいことの実現よりも助成金をとることが目標化してしまうジレンマもあった。「募金してよかった」「補助金を受けてよかった」と思えるような柔らかなイメージで取り組まれるとよい。

委員：まちコや夢ファンド補助金は対象者が限られているように思う。共働き世帯や子どもたちに活用されていない。子どもが親と一緒に申請できると面白い企画がでてくるのでは。そのためには学校と連携することも必要ではないか。

【まちづくりん部会について】

（これまでの成果と課題）

委員：自治会の加入率が年々低下し、子ども会やいきいきクラブも解散するなど、地域コミュニティの衰退が進んでいる。高齢者や独り住まいが増え、空き家も増えてきている。地区で夢ファンドを活用し、桜の植樹活動を行った。これをきっかけに、年3回（桜まつり、夏祭り、餅つき）イベントを開催。新たに飲み会を毎月第2土曜に開催するなど、地域のつながりづくりに取り組んでいる。

まちコが自治会活動に伴走して、課題解決に向けた支援を行い、地区を良くする一歩が踏み出せた。全23地区へ同様の活動を広げ、地域住民が自立して取り組めるようになっていくとよい。成功事例を参考に、切磋琢磨しながら取り組みたい。誰かが最初に声を上げれば、みんなも考えていることに気づくことができる。先導する役割が大事である。市内で取り組めるよう、お手伝いしていきたい。

委員：まちコは、以前は「元気な地域応援交付金」を活用するための住民会議のファシリテーター、現在ではコーディネーターとして地域課題の解決に活躍している。他にも、夢ファンド補助金採択事業の活動現場に赴き、事業の背景を学んだり、まちコ登録していなくても自身の持ち場で活躍する方もいる。築地自治会の事例では、自治会長が多くの業務を担っていたが、自治会長も務めるまちコから他自治会の事例の紹介や支援により役割分担が進んだ。自治会長がまちコ交流会に参加された際の雰囲気からも負担が軽減されたことが伝わり、伴走支援の成果を実感した。各自治会特性がある中で、にぎわい創出に取り組んだり、地域組織の運営の課題に活動の透明性を設けたり、まちづくりの幅は広い。他自治会の成功事例を共有するなど、情報共有の面でまちコが活きており、まちコ自身にも機運が醸成されつつある。

若い世代や大学生が活動に興味を持って、講座やイベント参加を希望する動きが出てきている。まちコ交流会に学生さんが参加されていた。同じテーブルのまちコの方からは、若い人との対話を通して

自分の出番があると感じ、イベントや講座にもっと参加したい、と発言したところ、共感した学生さんが「学び舎に参加します」と宣言された。委員の関係者からの声かけにより若い力の参画を受けて活性化されている。

委員長：今後、情報共有のためにパワーポイントでまとめて全体に共有いただけるとよい。

委員：近隣地域でも同様の取り組みがあったが、継続されなかった例もある。「元気な地域応援交付金」では、自治会が補助金を申請する際に住民会議の開催をセットで設け、まちコがファシリテーターや議題の設定に参加するなど、活躍の機会が設けられていた。住民会議の運営支援からコーディネーターとしての役割が拡大し、自治会の課題に対する伴走支援も展開している。現在は「まちコくらぶ」にて、中高生向けボランティア部をつくろうと、ボランティアに関する講座の開催を企画しており、まちづくり活動の楽しさを次世代に伝える取り組みを進めている。

（子ども・学校・共働き世代の参加へつなぐ）

委員：参加して初めて知ったことも多かった。知らない人もたくさんいる。知っていれば利用したい、利用する人も多いだろう。活動したくても資金がない人もある。広報して取り組んでいくことが大切である。

地域学校協働活動では、地域の方に手助けをいただいております、活動に近いものもある。良いところ取りしていけたらいいなと感じた。

事務局：学校教育課の奥村先生に、6月21日に開催するまちコくらぶにお越しいただき、地域学校協働活動の内容を紹介していただく機会を設けた。中高生等にボランティア活動を勧める際の参考にさせていただければと考えている。

委員：他の市町村でも類似のコーディネーター養成講座はあったが、活動が続くのは難しかった。市役所の全面的なバックアップがあってまちコの活躍の機会をつくることができている。この流れを崩さないようお願いしたい。

委員：自身はこれまで市民協働に関わる業務はなかったが、話をお聞きして絶やしてはいけないと感じた。発展させていけるよう気を引き締めて取り組みたい。

委員：子育て中の私たちの世代が参画することも大事と考えた際に、なぜ我が事として参画できないか、丁寧に聞き取ることで、まちコの活性化や夢ファンド補助金の活用につながるのではないかと。

子どもたちは地域で遊ぶ場がなく、集まってもゲームをしていて活動が少ない。子どもの頃からまちづくりの面白さを知ったり、住むまちを知ることができるとよい。野田地区は防災の取り組みが充実していて、子どもを連れて参加しているかいつも同じ家族が参加している。子どもたちがまちコや夢ファンド補助金を活用できると良い。

（共存・協働のまちづくりの意義）

委員：課題や困りごとをどのように改善し、どういう手段で取り組むか、と考えたときに、資料1では「共存・協働のまちづくり」という手段が書いてあり、なぜ必要かについて3頁に示されている。子育ての困りごととは何か理解しづらく、家族や隣近所の結びつきが弱まったことはそれぞれ原因が異なるように思う。課題が具体的に理解しにくい。よって、これまでは行政が公共サービスを提供してきたが、このままでは良くなく、事業者や市民らみんなで取り組まねばならないとあり、共存・協働のまちづくりに取り組むことで良くなるであろうことは分かったが、共存・協働のまちづくりがなぜ必要なのかが自分自身理解できない印象を受けた。

委員長：企業経験者が社会の中で重要な役割を期待される中で、問いかける際の課題である。疑問点がよく理解できた。企業での実績を社会にますます役立てていただくためには、こうした問いに答えていくことと、伝える時の組み立て方を工夫することが大切である。今後の部会においても疑問に感じた点を積極的に投げかけていただきたい。

(4)今年度のスケジュール

■【資料3】を提示し、事務局より説明

(共存・協働のまちづくり推進委員会開催予定)

【推進委員会】

- ・第2回 令和7年10月15日(水) 15時00分～16時30分
- ・第3回 令和8年3月10日(火) 10時30分～12時00分

【夢ファンド部会】

- ・第1回 令和7年6月24日(火) 14時00分～16時00分
- ・第2回 令和7年11月12日(水) 14時00分～16時00分
- ・第3回(公開審査会) 令和8年1月24日(土) 終日

※応募団体数により開催時間を調整する。

※応募状況の経過は適宜報告する。

【まちづくりん部会】

- ・第1回 令和7年8月21日(木) 14時00分～15時30分
- ・第2回 令和8年1月20日(火) 10時00分～11時30分

■事務連絡

- ・出席した公務員以外の方へ報酬を登録口座に支払う。
- ・議事録は基本的に電子メールで送付。紙での郵送を希望する場合は個別対応するため事務局へお申し出いただきたい。

以上